

Gallery **P A R C**

GRAND MARBLE

PressRelease:2015.07.15

【お問い合わせ】

Gallery PARC [グランマール ギャラリー・パルク]

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマール] 店舗内2階

【Tel&Fax】075-231-0706 【Mail】info@galleryparc.com 【HP】http://www.galleryparc.com

Gallery PARC Art Competition 2015 #03

白

明楽 和記

Akira Kazuki

2015年7月31日[金] - 8月9日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

Gallery PARC Art Competition 2015 #03

白

明楽 和記

Akira Kazuki

2015年7月31日[金] - 8月9日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

Gallery PARC[グランマール ギャラリー・パーク]では、2015年6月30日から8月9日にかけて「Gallery PARC Art Competition 2015」として3つの展覧会を連続開催いたします。

本展は様々なクリエイション活動へのサポートの一環として、広く展覧会企画を公募し、審査により採択された3名(組)のプランを実施するコンペティション「Gallery PARC Art Competition 2015」に応募された34のプランから、平田剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)、山本麻友美(京都芸術センタープログラムディレクター)の2名の審査員を交えた厳正な審査を経て採択された田中秀介、中尾美園、明楽和記の3名による展覧会を実施するものです。ギャラリー・パークではこのコンペティションに2014年から取り組み、本コンペティションは昨年に続き2回目の開催となります。

2015年7月31日(金)から8月9日(日)にかけて、その#03として、「明楽和記:白」を開催いたします。

2011年に成安造形大学 構想表現クラスを卒業、2012年に同大学 今井祝雄研究室を修了した明楽和記(あきら・かずき/1988年・和歌山生まれ)は、これまで個展・グループ展などによる発表を続け、2014年には「ART COURT FRONTIER#12」(ART COURT GALLERY・大阪)に出品するなど、徐々に活動の場を広げています。

『私は色を置くこと、与えることで作品を成立させています。』とする明楽は、これまで場や物が持つ特性を見極めながら、それらに関わる際に、色彩という要素に着目した作品を多く発表しています。たとえば既製品の時計は彩色され、あからさまに機能を隠されたそれは単なる色彩として壁面に配置されます。色とりどりのスーパーボールは空間に跳ね回ってストロークを描き続け、大量のビー玉は床にドリッピングとして転がり、ランダムに選択された色を木目に沿って与えられた角材は空間に絵画を存在させます。また、いわゆるホワイトキューブギャラリーの天井は浮かびあがるカラフルな風船により満たされる。

絵筆を持たずに絵画に取り組み、彫刻刀を持たずに彫刻を出現させ、楽器を持たずに音楽を奏でるような明楽のアプローチは、一見して色彩によるインスタレーションとして回収される点多いかもしれませんが、本質的にそれは「絵画」を解釈・分解し、その諸原的要素を抽出し、必然性の中に放つ行為とも呼べるもので、支持体としての空間の特性を観察し、捉えたものを描き出すための行為に他なりません。

本展「白」で見せる明楽の取り組みは、ギャラリー・パークをホワイトキューブ化するというシンプルなものです。これは多くの要素が混在するパークの特性に対し「白」という色彩による描画を試みる行為でもあり、美術の制度において「観るべきものが不在の無」としての「白」による空間を提示することで、鑑賞者に「観る」という行為と意味を能動的に迫ります。

尚、本展は7月31日(金)スタートによる変則的な会期設定となる点、ご注意ください。

本展の周知・広報にご協力頂ける際に、広報用画像をご用意しております。本リリース掲載画像からご希望の画像番号および掲載媒体情報を明記の上、【info@galleryparc.com】迄ご連絡ください。尚、個人の鑑賞および利用を目的とする場合は、画像の貸出しはお断りしておりますのでご了承ください。

展覧会名 白

出展作家 明楽 和記 【 http://akira.xii.jp 】

会 期 2015年7月31日[金] - 8月9日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

主 催 Gallery PARC

料 金 無料

内 容 明楽和記による絵画・インスタレーションによる個展。普段、ホワイトキューブではないギャラリー・パークの空間に、「白」による空間を出現させ、「ホワイトキューブ」によるギャラリーを仮設する。

会 場 Gallery PARC[グランマール ギャラリー・パーク] 〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル

ア ク セ ス 阪急河原町駅・三条京阪駅より徒歩10分、地下鉄東西線京都市役所前駅より徒歩3分。三条通・御幸町通の交差点北西角[グランマール]店舗内2階

問 合 せ Gallery PARC (正木・永尾)

〒604-8082 京都市中京区三条通御幸町弁慶石町48 三条ありもとビル [グランマール]2F

【Tel&Fax】075-231-0706

【Mail】info@galleryparc.com

Gallery PARC Art Competition 2015 #03

白

明楽 和記

Akira Kazuki

2015年7月31日[金] - 8月9日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

〈明楽和記プラン〉

ギャラリーをホワイトキューブ化するプランは今回の応募中、最も奇抜なプランでした。

しかし、作家において色彩は一貫したテーマであり、今回は色彩のなかの「ホワイト(白)」が主題なのでした。

ホワイトキューブを与えられたものとするのではなく、「ホワイトキューブを選ぶこと。

ホワイトキューブではないギャラリーだからこそ実施できる絵画論であり展示論として興味深いものでした。

平田剛志(京都国立近代美術館研究補佐員)



【広報画像01】

twenty four color

色鉛筆を絵画的に壁面に並べた。

14cm×18cm×0.7cm 色鉛筆
2013 gallerie weissraum Kyoto
©AKIRA KAZUKI

明楽 和記 Akira Kazuki

【 <http://akira.xii.jp> 】

展覧会について

ギャラリーをホワイトキューブ化する。

statement

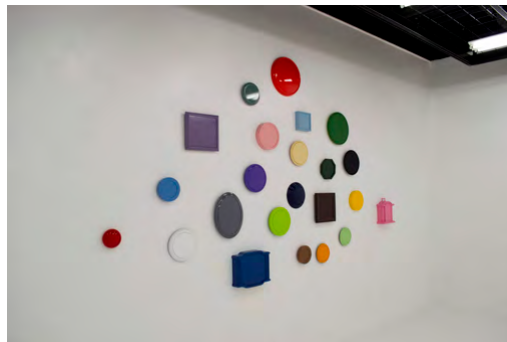
私は色を置くこと、与えることで作品を成立させています。

関連テキスト

抽象画、風景画、宗教画、太古の壁画。描かれている内容、描かれた時代、描くのに用いた素材が異なっても、それらの「描く」行為を「色を置いている」と捉えてみる。その置き方には、その時代や場所、状況によって必然性が存在する。

明楽の作品は、非常に感情的であったが大学で現代美術を学び始め、徐々に理性的になっていく。その過程で作品にメッセージ性を与えることをしなくなり、タイトルも16LB(16個の電球)、24 colors(24色の絵画)など、作品をシンプルに表したものとなっている。また、彼は空間や物から、色や、その並べ方、ルールを決めていく。時に、それはビー玉を床に落したり、色鉛筆を並べたり、カラフルなシャボン玉が宙を舞ったりする。そこにはその対象から紡ぎ出され、高められた必然性がある。

今回の個展「白」ではギャラリーをホワイトキューブ化する。それは展示空間において、ある意味、当たり前前の状況造ることであり、美術館やギャラリーでは見慣れたものだ。しかし、ことPARCで言えばいまままでにないほどに空間が異化され、白壁に囲まれて物質的には満たされた場になるが、美術の制度として、観るものが何も無い、という異様な状況が創り出されるだろう。



【広報画像02】

twenty four clocks in twenty four colors

動いている時計をラッカーで塗装した。

時計、ラッカースプレー(インスタレーション)
2011 contemporary ART gallery
©AKIRA KAZUKI

【広報画像03】

weather

天井に風船を敷き詰めた。

風船、ヘリウムガス(インスタレーション)
2011 ギャラリーアートサイト
©AKIRA KAZUKI

Gallery PARC Art Competition 2015 #03

白

明楽 和記

Akira Kazuki

2015年7月31日[金] - 8月9日[日] 11:00~19:00 *月曜日休廊・金曜日20:00まで・最終日18:00まで

明楽 和記 Akira Kazuki

【 <http://akira.xii.jp> 】

1988 和歌山生まれ

2011 成安造形大学 構想表現クラス 卒業

2012 成安造形大学 今井祝雄研究室 修了

おもな個展

2015 絵画の描き方 / Gallery 1963、大阪

2013 farbraum / galerie weissraum Kyoto、京都

-- Double Walking / CASE、京都

-- 16LB (キュレーター: 吉田 モモコフ) / Gallery Ort Project、京都

2012 Touch & Stroke (キュレーター: 横井 悠) / KUNST ARZT、京都

おもなグループ展

2014 ART COURT FRONTIER #12 ART COURT Gallery、大阪

2013 Art Shower 2013 / 海岸通りギャラリーCASO、大阪

-- アート亀山2013 亀山商店街、三重

-- 秋の小旅行 / 窯横カフェ、愛知

2012 成安造形大学卒業制作展 / 京都市美術館

-- TURNER AWARD / 東京、大阪、仙台、札幌に巡回

-- Art Shower 2012 / 海岸通りギャラリーCASO、大阪

2011 成安造形大学卒業制作展 / 京都市美術館

-- 構想表現: 四人の方法展 楓ギャラリー、大阪

-- See Here! Gallery PARC、京都

-- 湖族の郷アートプロジェクト / 大津市堅田地域、滋賀

2010 町家びらき展 / 八幡酒蔵工房、滋賀

-- 湖族の郷アートプロジェクト / 大津市堅田地域、滋賀

2009 町家全開展 / ボーダレス・アートミュージアムNO-MA、滋賀

-- 湖族の郷アートプロジェクト / 大津市堅田地域、滋賀

企画・キュレーション

2012 春名祐麻 展 キュレーション

2009 湖族の郷アートプロジェクト 企画・運営 学生代表

受賞

2012 Art Shower 2012 weissraum賞

2011 成安造形大学卒業制作展 最優秀賞

ワークショップ

2011 13 painters 仰木の里東保育園、滋賀

2009 101dogs 京都市勤業館 みやこめっせ、京都

コレクション

2012 An Infinite Stroke 東川町、北海道



【広報画像04】

16LB

天井の電球をバラバラなものに付け替えた

電球(インスタレーション)
2013 Gallery Ort Project
©AKIRA KAZUKI



【広報画像05・06】

acow

角材の木目にランダムな色の選択で着彩したものを30本並べた

木、アクリル絵の具(インスタレーション)

2014 ART COURT Gallery

Art Court Frontier 2014 #12

撮影: 表 恒匡

提供: アートコートギャラリー

©AKIRA KAZUKI